

患者ID:@PATIENTID

2021.2.6作成

@PATIENTNAME様

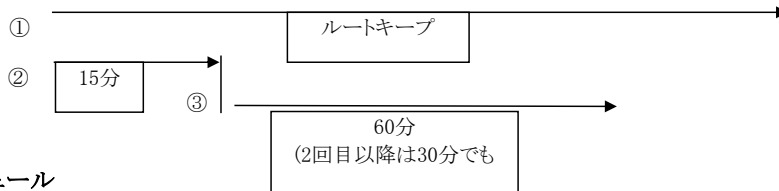
### 非小細胞肺化療(サイラムザ+ゲフィチニブ)

指示者	@USERNAME	身長	HEIGHT01_D	cm
コース数		体重	HEIGHT01_D	kg
		体表面積	#VALUE!	m2 (DuBoisの式)

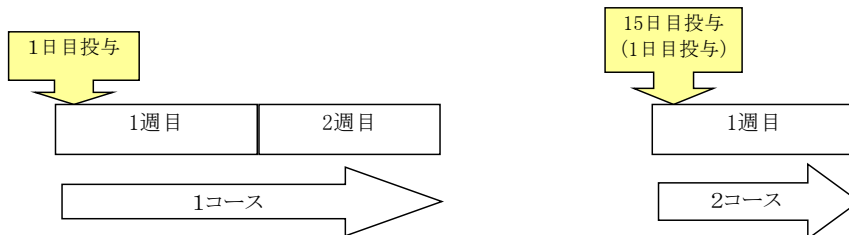
実施印

	薬物/実際の投与量	投与時間	投与経路	
①	生食100mL	ルートキープ	点滴	
②	ボラミン1A 生食50mL	15分	点滴	
③	生食250mL サイラムザ 10mg/kg ( )mg/body 最小単位5mg #VALUE! 計算値	60分 (2回目以降は30分でも可)	点滴	フィルター使用
④	ゲフィチニブ錠250mg	1錠1×夕食後	内服 (連日服用)	

#### 投与手順



#### スケジュール





※サイラムザ初回投与量が  
8mg/kgの場合の減量基準>

2g/日以上の 尿蛋白排泄量	サイラムザ 投与量
0回	8mg/kg
1回	6mg/kgへ減量
2回目以降	5mg/kgへ減量

※サイラムザ初回投与量が  
10mg/kgの場合の減量基準>

2g/日以上の 尿蛋白排泄量	サイラムザ 投与量
0回	10mg/kg
1回	8mg/kgへ減量
2回目以降	6mg/kgへ減量



サイラムザ投与期間中は、定期的に尿蛋白を測定してください。

<参考> 尿中の蛋白/クレアチニン比

「尿中の蛋白/クレアチニン比」は、以下により求めることができます。

尿中の蛋白/クレアチニン比 = 尿蛋白定量結果 (mg/dL) / 尿中クレアチニン濃度 (mg/dL)

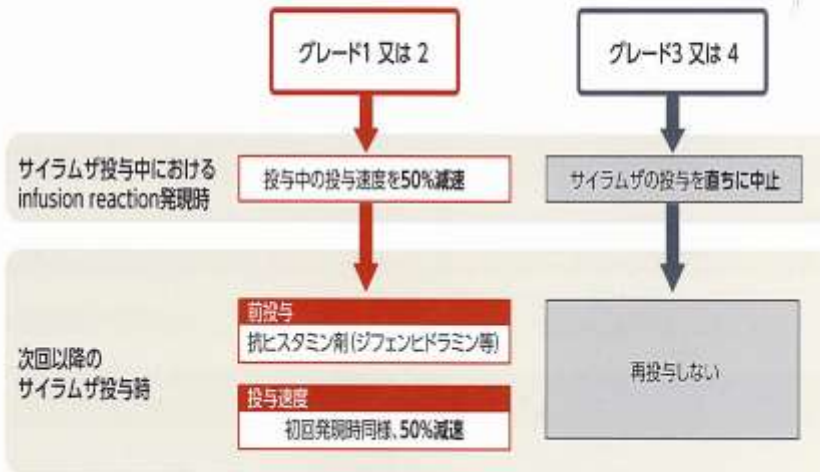
「尿中の蛋白/クレアチニン比」のポイント

1 日尿蛋白排泄量 (g/日) とほぼ等しい、もしくはよく相関することが知られています。  
尿中の蛋白/クレアチニン比が 0.3 ~ 0.5 の場合、尿蛋白排泄量は 0.3 ~ 0.5g/日程度と推定できます。

● Infusion reaction 発現時の対処方法

サイラムザ投与により infusion reaction があらわれた場合には、副作用の症状、程度に応じて以下の対処方法を考慮してください。

(Infusion reaction 発現時のサイラムザの対処方法)



その後もグレード1又は2のinfusion reactionが発現する場合

